

ピーマン tomato zonate spot orthospovirus (TZSV)について

令和3年5月、神奈川県のパピーマン施設栽培ほ場において、国内で初めてtomato zonate spot orthospovirus (TZSV) による病気の発生が確認され、令和4年2月12日付で神奈川県病害虫防除所から、特殊報が発表されました。

本病は、長野県でも既に発生が確認されているTSWV（トマト黄化えそ病）、INSV（インパチェンスえそ斑紋病）、IYSV（アイリスイエロースポット病、CSNV（キク茎えそ病）などと同じトスポウイルス (Orthospovirus) というグループに属するウイルス病で、アザミウマ類により伝播されると考えられます。これまでのところ長野県内では本病の発生は確認されていませんが、警戒すべき新しい病害として、神奈川県の特報に基づいて情報提供します。

被害の様子

- (1) 葉に退緑斑、えそ症状が発生します（図1）。場合によっては落葉し、生長点付近が萎れます。茎にえそ症状が発生することもあります（図2）。
- (2) 病原ウイルスはトスポウイルス (Orthospovirus 属) に属し、中国でのみ発生が確認されていました。
- (3) 本ウイルスはアザミウマ類によって媒介されると考えられます。中国ではミカンキイロアザミウマが主な媒介虫とされていますが、日本国内での媒介虫は不明です。
- (4) 中国では、トマト、トウガラシ、ばれいしょ、イチハツ（アヤメ、ジャーマンアイリスなどの近縁種）などでの自然感染が確認されています。



図1 葉のえそ症状



図2 茎のえそ症状

(神奈川県病害虫防除所 写真提供)

防除の方法

- (1) 国内での媒介虫種は明らかになっていませんが、トスポウイルスグループのウイルスであることから、アザミウマ類の防除対策を徹底してください。
- (2) 施設栽培では、アザミウマ類の施設内への侵入を防ぐため、施設開口部に防虫ネットを展張してください。
- (3) 育苗期から定植時のかん注剤や粒剤の処理を徹底し、栽培初期からのウイルスの感染を防いでください。
- (4) アザミウマ類は雑草にも寄生するため、施設内及び周辺の雑草を除去してください。
- (5) アザミウマ類の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、必ずローテーション防除を行ってください。
- (6) 疑わしい症状を見つけたら、最寄りの農業改良普及センター又は病害虫防除所までご連絡ください。

連絡先 長野県病害虫防除所 (東北信)TEL026-248-6471
(中南信)TEL0263-53-5642

発行 長野県病害虫防除所 令和4年9月作成